

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 1670 号

Comparative efficacy of pure yellow (577-nm) and 810-nm subthreshold micropulse laser photocoagulation combined with yellow (561-577-nm) direct photocoagulation for diabetic macular edema

(糖尿病黄斑浮腫に対する直接凝固(561-577 nm)併用 pure yellow (577nm) と 810nm マイクロパルス閾値下凝固の治療効果の比較検討)

稲垣 圭司 (いながき けいじ)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、糖尿病黄斑浮腫に対し、マイクロパルス閾値下凝固と毛細血管瘤に対する直接凝固を併用し、低侵襲に治療効果を高める新たな治療法を試み、その1年の治療経過を検証したものである。従来のマイクロパルス閾値下凝固は基本的に毛細血管瘤に対する直接凝固は併用しないことが原則であり、低侵襲である一方でその治療効果は少なく比較的軽症な黄斑浮腫に対して使用してきた。毛細血管瘤に対する直接凝固を併用することで治療効果を高め、より重症な黄斑浮腫症例に対してマイクロパルス閾値下凝固の適応を拡大し、その結果1年の経過で、視力を維持し有意な黄斑浮腫の減少を認めた。また本論文は従来マイクロパルス閾値下凝固で用いられてきた810nmの波長に加え、新たに登場した血管凝固に最も適した波長である577nmの波長を用いて毛細血管瘤に対する直接凝固とマイクロパルス閾値下凝固の併用療法を行った初めての報告である。その結果577nmレーザーは810nmレーザーより少ないエネルギーでマイクロパルス閾値下凝固を施行でき、毛細血管瘤に対する直接凝固に適した波長であることが明らかとなり、本論文は臨床的に意義のある論文である。

よって、本論文は博士(医学)の学位を授与するに値するものと判定した。